

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	秀峰会	代表者	櫻井 大	法人・事業所の特徴	ヒューマン・ケア・ネットワークの構築（包括的にニーズに応える） デス・エデュケーションの理念（死を考えることでよりよい今を生きる） 24時間365日の安心をご提供
事業所名	やまざくら	管理者	新井 修		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	1人	人	1人	1人	2人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	ご利用者のアセスメント強化 「ご利用者担当制」の実施	毎月「ご利用者情報」を更新し、最新の状態把握に努めた。	ご利用者を理解して支援に繋げる意識づくりが出来ていた。	・「ご利用者担当制」は有効性を見極め実施可否検討。 ・「ご家族視点」の取り組み
B. 事業所のしつらえ・環境	清潔保持及び感染症対策徹底	・日々の清掃、消毒等実施により、衛生的な環境保持 ・コロナ陽性者ゼロ（ご利用者・職員とも）	事業所内には立ち入りが出来なかったため、地域交流室からの視点で意見あり。	前回計画の継続
C. 事業所と地域のかかわり	地域交流室を、地域に開放スペースとして活用していただく提案をする。	・地域交流はコロナ影響により進められず	施設全体として地域に活用してもらっている。「小地域における生活支援整備事業」を通じ、地域課題や気になる人に対応している。	「川崎市生活支援コーディネーター」活動として近隣の「気になる方」をケアしつつ、地域交流を推進する
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	特に設定なし	コロナ影響で活動実績なし	生活支援コーディネーターの活動を通じて地域や行政とのかかわりを持っている。ベンチ設置等良い取り組みである。	「生活支援コーディネーター」事業の受託により、小地域での問題点等、課題抽出に取り組む（継続）
E. 運営推進会議を活かした取組み	定期開催の実施	コロナ禍にあっても、会議開催を意識し実施出来た。また、近隣事業所との共催も積極的に取り入れた。	他事業所の参加や広報誌、事例紹介を行うことで、地域課題について話し合う事が出来ている。情報共有が出来、有意義である。	前述「生活支援コーディネーター」事業の進捗報告を会議に取り入れる（継続）
F. 事業所の防災・災害対策	防災訓練の定期実施	年二回の訓練実施	計画や訓練の実情について話し合うことはなかったが、地域の拠点として取り組んでいる。今後会議等でテーマにしても良い。	左記ご意見を受け、運営推進会議や地域会議等でテーマにする。